

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2025年12月分)

ご協力ありがとうございました。2025年12月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 141 回答 130 回答率 92.2%

	前 年 同 月 比					
調査項目	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	計
売上数量	12社	17社	45社	33社	23社	130社
	9.2%	13.1%	34.6%	25.4%	17.7%	
	(3.1)	(9.9)	(33.6)	(29.0)	(24.4)	
売上高	11社	18社	39社	35社	27社	130社
	8.5%	13.8%	30.0%	26.9%	20.8%	
	(2.3)	(7.6)	(32.6)	(27.3)	(30.3)	
在庫数量	1社	25社	64社	22社	11社	123社
	0.8%	20.3%	52.0%	17.9%	8.9%	
	(1.6)	(11.8)	(52.8)	(25.2)	(8.7)	
販売単価	1社	15社	56社	47社	10社	129社
	0.8%	11.6%	43.4%	36.4%	7.8%	
	(2.3)	(9.9)	(45.8)	(36.6)	(5.3)	
収益状況 (粗利)	12社	17社	49社	31社	20社	129社
	9.3%	13.2%	38.0%	24.0%	15.5%	
	(4.5)	(15.2)	(33.3)	(31.8)	(15.2)	
稼働率 (生産・加工設備)	3社	15社	48社	27社	19社	112社
	2.7%	13.4%	42.9%	24.1%	17.0%	
	(1.8)	(7.1)	(49.6)	(32.7)	(8.8)	
入出庫の トラック台数	2社	18社	53社	34社	18社	125社
	1.6%	14.4%	42.4%	27.2%	14.4%	
	(0.8)	(3.9)	(54.3)	(30.7)	(10.2)	
現在の 景況感	0社	1社	60社	38社	30社	129社
	0.0%	0.8%	46.5%	29.5%	23.3%	
	(0.0)	(2.3)	(40.9)	(34.8)	(22.0)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	6社	94社	21社	7社	128社
	0.0%	4.7%	73.4%	16.4%	5.5%	
	(0.0)	(4.5)	(72.7)	(17.4)	(5.3)	
特記事項						

注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(2025年12月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置きます。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 12月は主力のトラック関連が堅調で、前年同月比でわずかに増加。一方、店売り分野は需要・価格ともに弱含み。本来は価格を底入れしたいが、需要が弱いため、値上げに足並みを揃えられず、見送らざるを得ない状況。
- ② 12月の販売量は、前年同月と稼働日は同じだったが、▲15%とかなり落ち込んだ。建築分野、店売り分野の動きが低調なまま推移しているため、2026年に入ってもこの傾向は続くものと思われる。

中板

- ① 中板は需要に回復は見られず低調推移が続く。建築関連・建機関連は前向きな話も聞かれず、店売りも相変わらず小口当用買いに徹している。市況は弱含みであるものの、極端な安値の売込みは見られず、底値感も見え始めている。

厚板

- ① <全体感>引き続き各分野で需要は停滞している。紐付向けが先行き不透明感から慎重な生産計画になっていることに加え、土木関係も物件の端境期となっており、図面待ち含めて受注量は少ない。
<分野別>建産機においては状況に変化なく低位横ばい。機種構成も量産の中型機が中心となっていることで物量、売上共に減少傾向となっている。その他の分野においても仕事量は少なく、連休前後の多少の荷動き以外で引き合いは少ない。
- ② 建設機械は関税に加えて円安もあり、輸出向けが減少している。店売り関連は、鋼材の高騰や人手不足の影響で苦戦が続く。

一般形鋼・H形鋼

- ① メーカーは、生産コスト上昇により、売り腰は強基調。流通としては、メーカーの値上げによる採算悪化が懸念されるため、販売価格の更なる値上げを目指す。
- ② 12月は販売減覚悟で価格転嫁・採算改善に取り組んだ。結果、販売減は想定量を少し上回ったものの、採算は改善。しかしながら、ここで満足しては本当の改善とは言えない。在庫が値上玉に入れ替わる前に、諸コスト含めた追加転嫁が必要。更にメーカーの追加値上げも予想されることから、今は通過点であることを丁寧に説明の上、取り組み継続。

- ③ 12月第4週は前年と違いマーケットに仕事は薄く、既に店仕舞いの顧客も多く、この週は売上半減となった。鉄鋼団地内も、その所為かトラックの駐車、走行台数は疎らである。藤の咲く頃まで末端の回復は無理ではないか。
- ④ 着工見送り等が出てきていて、物件が動いていない。人手不足が大きく、「やれる体制が整っていない」のが現状。

異形棒鋼

- ① 売上は前年同月比回復したが、収益は悪化しており、苦しい月次成績が続いている。さらにキメ細かい販売で採算確保を求めている。
- ② 12月は普通の動きだった。1月2週目に入って少し動きが出てきた。良い年にしたい。

平鋼

- ① 10、11月の良い流れを12月も期待したが、後半失速。1月以降の需要が悪い中の値上げが出来るか不安が残る。
- ② 12月の倉出し出荷は、11月低迷の反動で多少は回復したが、それでも2024年の平均程度の量となった。社内加工も引き続き山積みは低く、春先の案件も各営業毎に情報収集をしているが明るい話はない状態。また、昨年9月末に各平鋼メーカーが値上げを発表し、その値上げ分が入り始めているので、今後は値上げの話をしつつ実行時期の見極めをしていく。

軽量形鋼

- ① 10月より受注量減少が継続。2026年3月末までは低位推移見込み。
- ② 大型物件も終了が近づき端境期に入るため、出荷減となる見込みであり当面厳しい。

鋼管

- ① 価格は高炉メーカーの値上げ表明により横ばいを保っている。

構造用鋼

- ① 需要は自動車関連で一部堅調も、全体としては盛り上がりには欠ける状態。建機は海外の需要減の影響より低位の状態。産機、工作機械も同様に動きが鈍い。店売りの荷動きも横ばいが続く。価格は一部で安値も見られるが局地的。高炉トラブルの影響もあり、現状横ばいで推移するのか。

その他

<スクラップ>

- ① 12月のスクラップ市況は、実需低迷が続く中、横ばいで推移した。製品需要の低迷は続き、メーカーのスクラップ購買姿勢は慎重。年明けの市況は海外情勢の動向次第では相場を牽引し、国内相場も強含みの可能性がある。

<金属表面処理>

- ① 紐付き、物件物共に計画通り。スポットは低調で扱い量としては前月比▲15%となり、件数は変わらないが小ロットが目立った状況。1月も同様の扱い量を予想しており、紐付き・物件物を中心に操業予定。突発的な対応が出来るよう準備しておく。